

アプリケーションの責任追跡性を確保するために

アプリケーションの責任追跡性の確保により、IT部門は社内ネットワーク上で業務アプリケーションや個人用アプリケーションを管理可能に

特定のアプリケーションが他のアプリケーションを圧迫して、極端に大きなネットワーク帯域を占有したために、重要アプリケーションのパフォーマンスが影響を受けた経験はありますか。それとも、社内ネットワーク上で動作する業務アプリケーションと個人用アプリケーションをもれなく管理下に置き、業務に不可欠な重要アプリケーションを常に最高水準のサービス品質で配信する自信がありますか。

アプリケーション配信はクラウドコンピューティングや仮想化などの技術革新によってさまざまなメリットがもたらされていますが、同時に従来のアプリケーションとは大きく異なる挙動やトラフィックパターンも見られます。こうしたアプリケーションを制御できなくなると、他の重要アプリケーションのサービス品質に深刻な影響を与えかねません。しかも、業務とは無関係のインターネットアプリケーションが爆発的に増加しており、中には攻撃的な側面があるものや、意図的に追跡から逃れようとするもの、大量の帯域を占有するものがあるため、アプリケーションの責任追跡性の確保はこれまでになく重要課題になっています。

アプリケーションの責任追跡性について、ブルーコートの製品マーケティング担当ディレクター、スティーブ・ハウスは「アプリケーションにネットワークを支配させるのではなく、IT担当者がアプリケーションを支配することにほかなりません」と説明します。

生産性を落とさずコストを削減

アプリケーションの責任追跡性は、実際のビジネスを左右します。例えば社内で数人のユーザーがYouTubeの動画を見ているだけで、ネットワークが圧迫されることがあるうえ、金融取引の妨げになれば会社の決算処理を遅らせることにもなりかねません。会社の昼休みに多数の従業員が一斉にSNS（Facebookやmixiなど）をチェックすれば、社内コールセンターの重要なVoIP通話に影響が及ぶ恐れがあります。前出のスティーブ・ハウス製品マーケティング担当ディレクターは「アプリケーションの責任追跡性が確保されれば、業務中の従業員の生産性を落とさずに済みます」と話しています。

社内ネットワーク上で使われている業務アプリケーションや個人向けアプリケーションを制御できれば、ネットワークを適切に管理して業務アプリケーションに見合ったサービス品質を確保できます。アプリケーションの責任追跡性が確保されれば、IT担当者は、業務アプリケーション、VoIP、ビデオ会議、リアルタイムのセッションやトランザクションなどが円滑に動作し、業務と無関係のアプリケーションによってパフォーマンスが損なわれない環境を実現できます。また、「ネットワークが遅い」といったユーザーからのクレームに対処する必要がなくなるばかりか、事前に問題のあるアプリケーションを見つけ出して管理下に置くことで、パフォーマンス低下の問題も回避できます。

一見避けて通れないネットワーク帯域の増強作業も、今のようにコスト削減重視の時代にはアプリケーションの責任追跡性が確保されていれば、実施時期を先送りできます。業務に無関係のトラフィックを上手に制御すると、帯域全体の平均30~60%を取り戻せます。「業務に関係のないトラフィックをきめ細かく管理

し、業務アプリケーションに帯域を回すことができれば、新しいアプリケーションを導入しつつも WAN 増強は先送りする余裕が生まれます」(スティーブ・ハウス製品マーケティング担当ディレクター)。

アプリケーションの可視化と制御

アプリケーションを正確に特定して挙動を把握することは、昔から困難とされてきました。それどころか、以前にも増して厄介になっています。「アプリケーションの責任追跡性を確保するためには、アプリケーション層以上の動きを知るツールが欠かせません。そうしないと、全体像が見えず、重要な業務アプリケーションをどのように保護し、業務に無関係のアプリケーションをどのように制限すればいいのか、的確な判断が下せません」とスティーブ・ハウス製品マーケティング担当ディレクターは話しています。

アプリケーションの責任追跡性は次の3つの柱で構成されます。

- **きめ細かいアプリケーション可視化機能**：ほとんどの監視ツールは、通常、ポートレベルで監視するため、アプリケーションの責任追跡性を確保する性能がありません。しかし、Webアプリケーションが台頭し、ときにトリッキーな方法で動作する業務外の娯楽系アプリケーションも増えているため、IT担当者がポート番号やプロトコルタイプでアプリケーションを分類しただけでは、ネットワーク状況を正確に把握しきれないのが実情です。つまり、ほとんどのトラフィックがWebのプロトコルやマイクロソフトのプロトコルとわかっただけで終わりにするのではなく、使用中の具体的なアプリケーションを見極めて従業員による実際のネットワーク使用状況を把握する必要があります。こうしたアプリケーションレベルの可視化作業は、トラフィック管理で的確な判断を下す第一歩となります。
- **高度なアプリケーションインテリジェンス**：この機能があれば、アプリケーションの実際の挙動を詳しく把握できます。具体的にはサブアプリケーションの個々のコンポーネントを把握する機能が欠かせません。というのも、こうしたコンポーネントごとに、トラフィックのプロファイルやビジネスの優先度も大きく異なってくるからです。例えばVoIPのトラフィックは業務でも私用でも使われます。業務用のVoIPシステムに最高の優先度を確実に設定する一方、従業員が友人などとスマートフォンで通話する場合はベストエフォートのトラフィックで対応すべきです。

業務に無関係のアプリケーションには、80番ポートを使用するもののほか、IPマスカレードでHTTPや他のアプリケーションを装うものもあります。こうしたアプリケーションを見つけ出すために、高度なアプリケーションインテリジェンスが不可欠です。「こういったアプリケーションを見つけ出せないと、制御も不可能です」とスティーブ・ハウス製品マーケティング担当ディレクターは指摘します。

- **統合型ポリシーベース制御**：サービス品質保証を確実に実行し、問題のあるアプリケーションを制限します。また、重要アプリケーションを保護し、最も帯域が必要なアプリケーションに帯域を確保します。

リアルタイムに変更を加える機能も大切です。「アプリケーションの責任追跡性を確保するには、IT担当者がリアルタイムのフィードバックループを整え、設定変更で期待どおりの効果が得られたかどうか確認する必要があります」(スティーブ・ハウス製品マーケティング担当ディレクター)。

リアルタイムのフィードバックの仕組みがない場合、IT 担当者は手間暇のかかる作業を何度もこなさなければなりません。

アプリケーションの責任追跡性が確保可能な Blue Coat PacketShaper 8.5

ブルーコートはアプリケーションの追跡性を実現する最新の PacketShaper® 8.5 を発売し、アプリケーション配信ネットワークの進化に向けて新たな一歩を踏み出しました。PacketShaper 8.5 搭載のアプライアンスは、きめ細かいアプリケーション可視化機能、高度なアプリケーションインテリジェンス機能、強力なポリシーベースの制御機能を 1 つのワークスペースに統合し、社内ネットワークでアプリケーションの責任追跡性を実現します。

PacketShaper 8.5 では、統合型のワークフローにより、リアルタイム監視、履歴レポート発行、ポリシーベースの QoS 制御で、アプリケーションを詳細に把握できます。直観的な完全統合型ワークスペースがあり、重要なアプリケーション挙動を視覚的に表示するため、適用した QoS 制御の効果を即座に確認できます。PacketShaper のきめ細かい可視化機能を進化させながら可視化・制御ソリューションでたゆまぬ技術革新を続けるというブルーコートの取り組みは、今回の最新バージョンにもしっかりと受け継がれています。

さらに PacketShaper アプライアンスから、音声・映像系アプリケーションや仮想化アプリケーションの可視化と制御も可能になりました。また、VMware® View Virtual Desktop Infrastructure (VDI) のトラフィックからネットワークトラフィックを個別に特定して管理する機能を備え、仮想化デスクトップをきめ細かく管理できます。

アプリケーション配信の方式は大きな変化を遂げており、IT 部門にとってはコストを抑制しながら主要業務アプリケーションのサービス品質を確保し続ける必要があります。アプリケーションの責任追跡性が確保されれば、従業員の生産性は損なわれず、帯域増強の必要性も減少します。アプリケーションの責任追跡性に関連するソリューションで業界をリードするブルーコートのソリューションであれば、企業がネットワークを制御する力を取り戻し、業務アプリケーションに必要なサービス品質を確保できます。しかも、従業員が休み時間に SNS の自分のページの更新、iTunes での楽曲ダウンロード、Twitter の投稿、YouTube の人気動画の閲覧をしても、業務に影響を与えることはありません。

ブルーコートシステムズ合同会社

〒105-0021 東京都港区東新橋 1-9-2 汐留住友ビル 16 階

Tel 03-6251-9111(代表) Fax 03-6251-9112 Mail Japan.info@bluecoat.com URL <http://www.bluecoat.co.jp>

Copyright©2009 Blue Coat Systems, Inc. All rights reserved worldwide.

Blue Coat, Blue Coat のロゴはアメリカ合衆国およびその他の国々における Blue Coat Systems, Inc. の商標または登録商標です。その他の製品名及び会社名は各社の登録商標または商号である可能性があります。仕様は予告なく変更となることがあります。